

科目名	日常生活援助技術Ⅱ	配当時期	1年次前期	講義担当者
時間割表記名	日常生活援助技術Ⅱ (食)(清潔)(罨法)	単位数	1単位	川野 友美 (実務経験のある教員)
		時間数	30 時間(16 回)	樋口 裕也 (実務経験のある教員)

事前学習内容

関連する看護形態学、基礎看護技術論、日常生活援助技術Ⅰの学習内容を復習して臨む。

技術演習前は、テキストと動画を活用し、技術の根拠を含めた手順をレポートにまとめる。

授業目標

- 人間にとての食の意義を理解したうえで、食に関わる援助技術が実践できる。
- 清潔援助の効果と呼吸・循環器など全身への影響を理解したうえで、その人の状態に合わせた援助方法を選択し、清潔・衣生活の援助が実践できる。
- 罨法の目的・種類と罨法が身体に及ぼす影響を理解し、罨法の援助が実践できる。

DPとの関連

DP1. 看護の対象である人間を身体的・精神的・社会的・靈的に統合された生活者として理解することができる。

DP2. 一人ひとりの健康状態に応じて、最善の看護を選択し、科学的根拠に基づいた看護を実践できる。

DP3. 一人ひとりの多様な価値観や人権を尊重し、倫理観に基づいて看護を実践できる。

DP5. 自己を理解し、他者を尊重したうえで、人間関係を構築することができる。

授業の流れ

回	学習内容	方法	備考
1	食事援助の基礎知識 1)食事の意義 2)食事援助が必要な対象の理解 3)食欲と食行動のアセスメント 4)栄養状態のアセスメント	講義 演習	テキスト①②資料
2	食事の援助 1)療養生活における食事の種類と形態 2)食事介助の基本 3)摂食・嚥下機能を考慮した食事の援助 4)対象に応じた援助 (1)食欲不振 (2)視覚障害 (3)片麻痺	講義	テキスト①②資料
3	食事介助の実際 1)自力で食事摂取ができない人の食事介助 (1)環境整備 (2)セッティング (3)摂食・嚥下機能を考慮した介助 (4)患者への配慮	演習	テキスト①②資料

4 5	清潔の援助の基礎知識 1)人間の基本的欲求としての清潔 2)生活習慣としての清潔 3)対象に応じた清潔援助の選択と留意点	講義 グループ学習	テキスト①②資料
6	衣生活の援助に必要な基礎知識 1)衣服を用いることの意義 2)熱産生と熱放散 3)被服気候 4)衣生活に関するニーズのアセスメント 5)援助の実際 (1)病衣の選び方 (2)病衣・寝衣の交換	講義	テキスト①②資料
7	臥床患者の寝衣交換の実際 1)寝衣交換の目的 2)寝衣交換の手順 3)寝衣交換時の留意点	演習	テキスト①②資料
8 9	臥床患者の全身清拭の実際 1)全身清拭の手順 2)タオルの用い方 3)拭き方 4)保温と羞恥心への配慮 5)清拭車の使用方法・使用上の注意点	演習	テキスト①②資料 * 9回目 45分
10 11	臥床患者の洗髪の実際 1)洗髪の手順 2)方法に適したポジショニング 3)頭皮の洗い方 4)保温と配慮 5)洗髪車・ケリー・パッド・洗髪台の使用方法・使用上の注意点	演習	テキスト①②資料
12	臥床患者の足浴の実際 1)足浴の手順 2)足浴に適したポジショニング 3)保温と配慮	演習	テキスト①②資料
13	手浴・爪切りの実際 1)手浴の手順 2)手浴に適したポジショニング 3)保温と配慮 4)爪切り (1)爪切りの援助の適応と禁忌 (2)爪の切り方 口腔ケア 1)口腔ケアの手順 2)口腔ケアに適したポジショニング 3)ブラッシングの方法 4)含嗽の介助	演習	テキスト①②資料
14	臥床患者の陰部洗浄の実際 1)陰部洗浄の手順 2)陰部洗浄に適したポジショニング 3)保温と羞恥心への配慮	演習	テキスト①②資料
15	罨法の援助に必要な基礎知識と援助の実際 1)罨法の目的と効果 2)罨法の種類 3)罨法の適応と禁忌 4)援助の実際	講義 演習(技術)	テキスト①②資料

16	筆記試験(45分)	試験(筆記)	
受講上の注意	○技術の習得に向けて各自で練習を行う。		
使用するテキスト	①系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 ②看護技術プラクティス 第4版 学研メディカル秀潤社		
参考文献	①系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 医学書院 ②看護形態機能学 第4版 日本看護協会出版会 ③口から食べる幸せをサポートする包括的スキル 医学書院		